

1. 委員からの意見集約

【田中委員】

コロナ禍においても学生の皆さんのために尽力いただいていることを具体的な数字をもって報告いただき、ありがとうございました。進捗状況が理解できました。

先生方のご尽力のおかげで遅刻が年々減ってきており、また挨拶指導などもされているとのこと、これからも引き続き人間力の向上のために引き続き指導よろしくお願ひいたします。

資料と共にホームページも拝見いたしました。コロナ禍においてより一層、ホームページ等からの情報発信の重要性が求められている中で、校長先生のブログや各カテゴリの内容も写真がふんだんに使われており分かりやすく、かつ適宜更新され情報も新しくとても良いと思います。

過日に送付いただいた新しく作成されたパンフレットも先生方が知恵を絞って作成されている感がうかがわれます。

強いて言うならば、①ホームページを拝見する限り動画がありませんでしたので、もし動画を差し入れるようでしたら、動画なども今後検討いただけると、より一層情報が伝わるのではないかと思います。

【川崎委員】

コロナウイルス感染が拡大するなか、感染予防対策をしっかりとされていることがよくわかりました。
ご苦労も多いと思いますが、今後もしっかりと願ひします。

- ・留学生を迎えることができなかったが、交流先を模索し、オンライン交流を実施し、3学期には第2回を実施する予定。
- ・学校説明会や見学会も学校案内資料を送付にて代替。

上記の対応は今の状況に合った素晴らしい対応だと思います。

また、紙の資料はもちろんですが、web ページ、携帯連絡網を活用して情報を積極的に発信する件はおおいに評価します。一層の充実を図られることを期待します。

今年もSGS（スクール・ガード・サポーター）活動に参加して頂けた事は、とても嬉しい事でした。

②今後も地域貢献活動の充実を期待します。

交通安全指導、自転車通学者へのマナー違反指導については、地域住民の意見等も聴いて細かな指導をされていることが充分伝わりました。

- * 今、世界中でコロナウイルスが猛威を振るっており、新しい生活様式を模索している最中です。
考えられる予防対策をしっかりと、全員元気に新学期を迎えられることを願っています。

【貞光委員】

学校運営に関して指摘や意見は特に御座いません。

コロナ禍での生徒の生活する空間の衛生面での配慮は、引き続きお願ひいたします。

【森委員】

コロナ禍の中でも、学習指導要領の改訂に向けての準備を進めておられることやオンラインでの海外交流などに取り組んでおられることに、先を見通した学校運営をされておられると感じております。

また、工夫されながら各種行事を実施され、生徒の活躍の場や成長の場を確保されていることがうかがえます。その様子をHPや学校説明会で紹介されていることも中3生へのよいPRになっていると思います。中2の時の学校訪問での好印象が志望校決定のきっかけとなった本校生徒も何人もおります。ぜひ、③中學生に御校の魅力を伝える機会を今後も多く作っていただければと思います。

各学年のご報告からそれぞれの成果と課題を知ることができました。学年ごとの様子も異なると思いますが、登校時間の指導が若干異なることや、学習指導面でのスタディサプリや学習時間の記録など、せっかくの取組が学年のみになっているように感じました。指導の統一や、効果のある取組を学校全体のものとすることでさらに学校力の向上につなげていただければと思います。

【大東委員】

コロナ禍の中で対面での活動に制約がある中で、様々に工夫を行い運営されている様子、非常に頼もしく思いました。

- ④授業満足度との関連で、貴校でのICT教育はどのようになっていますでしょうか。

大学教育は現在対面とリモートの併用になっていますが、リモートの利点が見えてきた中で、コロナ禍が終息してもおそらく元の対面のみに戻ることは考えられない状況です。

高校でのリモート教育の利点もあるかと思いますが、どのように進められていますでしょうか。

- 文化祭満足度に関して、大学はほぼリモートによる大学祭となりましたが、リモートを積極的に取り入れた構成も考えられるのではないかと思います。いかがでしょうか。
- 遅刻者の指導、先生方の指導に感服致します。大学での状況を鑑みますと、⑤学校生活自体がおもしろくないという生徒も遅刻者の中にいるのではないかと思います。遅刻者の学校満足度アンケートを見るとその傾向が分かるのではないかと思います。おもしろくない要素には、授業・課外活動等の様々な要素があるかと思いますが、どれか一つでも生徒の感性に引っかかれば、学校に行こうという意欲も湧いてくるのではないのでしょうか。
- 進路についてですが、コロナ禍の中、どこの大学もなし崩しで、推薦入試合格者を増加させています。これは受験生自身がコロナ禍の中で早く進路を決めたい早く安心したいという理由と、大学側も早く入学者を決定したいという理由からだと思われそうですが、一般入試枠をどんどん減らしている状況です。以前AO入試は一般入試枠ですと申し上げましたが、AO選抜枠を除くと、本学では本来の一般入試枠は入学定員の2、3割という状況です。
この状況に付随して、入試制度自体が試験による選抜から、マッチングによる「相思相愛」の入学に変わっていくのではないかと考えられます。すでに大学での就職活動が各種インターンシップによるマッチングに選抜が移行しつつあり、コロナ禍でその傾向が今年度特に強く表れている印象です。⑥こうした中では、将来何がしたいのかについて考えることがより重要になってきます。高校での学びも、生徒の将来設計につながる形での授業運営が特に求められるようになってくるのではないのでしょうか。
- 最後に、口頭での説明がないと、先生方がまとめられたことについてどのようにお考えなのか分かりづらい状況です。次回以降で書面での実施になるようでしたら、説明文も添えていただければ、それこそリモートで、説明している映像をいただいてそれを見ることでより学校の状況が分かると思います。⑦また可能でしたらオンライン開催を希望したいと思います。

【松宮委員】

中期目標の達成度合いについて

・学力向上と進路実現

授業満足度が80ポイント台を維持することができていることは評価に値する。また、授業改善へ向けての取り組みが、限られた期間ではあるものの、昨年を上回る授業見学回数として現れている。これらの取り組みが学校教育自己診断により、オンライン指導を含め、授業外学習時間の伸びとして現れることが期待される。

・豊かな人間性の涵養

体育祭や文化祭をコロナノーマルな環境で限定的に実施することができたことは、生徒にとっても大きな励みとなったことが、特に体育祭に対する満足度(87.3ポイント)からも窺い知ることができる。また、部活動への参加率が昨年同様を維持していることも教科外活動と教科指導との両輪がうまくかみ合っていることを示しているものと判断される。

・活力ある学校づくり

オンラインセミナーやオンラインプログラム等を活用し、国際交流プログラムを継続的に実施したり、Web上での情報発信を積極的に行うなど、限定的な環境やリソースを用い、創意工夫した取り組みが実施されたことは評価に値する。

・分掌及び各学年の取り組みについて

⑧入学時点での混乱を経験した1年生と、進路決定時点でのコロナの影響等を被っている3年生に対する重点的な指導や支援が望まれる。

また、2年生が予定している修学旅行についても今後代替策や中長期的な取り組みが求められるところである。

各分掌の取り組みも、感染予防に努めながらも、オンライン等を活用した取り組みが推進されていることは望ましいことである。

⑨教職員の勤務態様も、コロナ感染拡大に伴い、加重負担とならないような工夫や組織的体制作りが望まれる。

2. 各委員からの意見に対する回答

- ① 学校 HP に動画をアップすることについては、以下の 2 点から、外部公開を目的とした学校 HP には配信を控えている所です。

・リソースの問題

本校の HP は、府教育庁が提供するリソース(CMS)を活用しており、各校が利用できるコンテンツ容量は、最大 1G と限定されております。そのため、既に公開している各種画像についても圧縮処理をし(画質を一定レベルに落とし)、掲載している状況。

・本校の運用ポリシーの問題

動画を掲載する目的は、生徒の教育状況を公開すること。『百聞は一見にしかず』の一方で、その動画に写り込んでいる生徒ひとりに、公開することに対する同意を得る必要があります。遠足・修学旅行・部活動等、校外での行事では、学外の方が写りこんでいる可能性もあり、公開できる動画であるか否かを確認するために時間を要します。その意味では、外部に向けた動画公開については、個人が特定されないよう、撮影時にも配慮する必要があります。

一方で、校内限定公開として、模擬テストの解説動画、単元復習用の動画等を現状では外部リソース(YouTube 等)に掲載し、その URL を生徒に公開し視聴状況を確認する等の運用を行っています。今年度、教育庁が一律に準備した GoogleGsuite を利用し、本校生徒のアカウントのみアクセスできる環境の構築と、リテラシー育成のための準備を計ります。

- ② 十中校区協議会に参加し、校区協議会で取り組まれている SGS(スクールガードサポーター)に毎年参加させていただいております。

また、例年 7 月に本校の希望生徒数名が寝屋川支援学校に訪問し、支援学校の生徒と交流してきましたが、今年度は、9 月に寝屋川支援学校から本校にビデオレターを送付してもらい、11 月には、本校のビデオレターおよびメッセージカードを送付し、視聴してもらいました。その際、メッセージカードと同じ形に型取られた枠を台紙に記し、カードを同じ形の枠に当てはめるゲームも楽しんでもらえる工夫を施す等、参加した生徒の創意工夫も見られました。

- ③ 中学 2 年生段階での高校体験については、複数の学校から問い合わせがあり、日程や時間帯を調整の上、できる限り体験していただいております。尚、例年実施してきた部活動等での交流については、できておりません。今後、部活動における留意事項を確認し、引き続き中学校との色々な交流についても模索してまいります。

- ④ 2 学期に校内の ICT 環境整備(プロジェクタ・スクリーンの設置、HR 教室で利用する端末整備等)を行い、すべての授業ではないが、適宜 ICT を活用した授業が展開されている。

2 学期末に実施した授業アンケートでは、授業の構成(教材・板書の工夫/教材や指示する課題の量が適切)の項目において、前期 3.298 ポイント(4 点満点)から 3.313 ポイントに、また、授業において、自ら考える時間/自ら考え活動する時間を取り入れているとの項目に対して、前期 3.362 ポイントから 3.387 ポイントにいずれも微増ではありますが、高評価を得ています。

尚、リモート教育について、新たな生活様式の中で高等学校は稼働しております。同時双方向型のオンライン動画の配信は行っておりません。模擬試験の解説等の振り返りを動画で一部配信しておりますが、すべての教科・科目にはなっていません。通常の授業を進めながらの実施は、教職員の業務をさらに増やす結果となるため、行えていない現状。尚、授業の様子を動画にとり、復習用に視聴できる環境整備等、教員に多くの負担がなく、かつ、生徒の学習定着につながるようなコンテンツ作成等を考慮することは、一定意味があるものと考えています。

- ⑤ 学校生活の状況についてのアンケートは無記名で実施しており、遅刻過多の生徒を特定した分析は行っていないのが現状。ご指摘の通り、授業での興味・関心、学力や技能が身についた等の達成感、部活動や体育祭・文化祭等の特別活動での取組等が、学校満足度として現れるものと思います。

学校教育自己診断生徒アンケートにおいて、『学校に行くのが楽しいですか』との問いに、肯定的に回答している生徒は80.5%おり、また、行事の工夫についての問いについても、肯定的回答が81.1%ある。今年度は、体育祭・文化祭が例年とは異なる時期(十分な準備期間が取れなかった)、運営方法での開催となる中、一定の評価が高く生徒は感じている。

引き続き、学校生活がより充実させられるよう、各種アンケート分析を行い、適切な指導や教材等を探りたい。

- ⑥ より早く目的・目標を考え、設定する取組として、志望する学校・学科等を早い段階で申告させる取り組みを検討している。目標を実現するために、どの時期に何をし、その時々に関心する自身の実力・取組成果を確認しながら、自己実現につなげるプログラムを検討しています。

その意味で、今年度2年生の第1回模擬試験には100名を超える生徒が受験した。単に受けるだけでなく、その後の取組をどのように進めるかについて引き続き指導する予定。また2年生については昨年度より冬休みの宿題として「第一志望宣言書」を記入している。なかなか書けない生徒も見受けられるが、1年後、早ければ半年後の自分の進路決定に向け、始動させる狙いがある。同時に、保護者からもコメントをもらうことで、家族間の意思共有をはかっている。

- ⑦ オンラインにて直接説明させていただく機会を持てればよかったのですが、オンライン授業(ZoomやMeetの設定等)についても校内で試行をしている状況。機会があれば開催させていただきます。

- ⑧ 3年生は卒業間近に迫っており、また、一般選抜にて受験する生徒も一定数居り、引き続き、講習等進学指導を行っている。また、1・2年生についても3学期には実力テストも控えており、その結果を踏まえ、次年度につながる取組を検討してまいります。

- ⑨ 管理職として一番気をつけなければならないと実感しております。生徒の安全・安心を確保する一方で、教職員には、土曜授業や夏休み・冬休みが例年より短い等、自己研鑽する間もなく、授業準備等に追われている状況です。

また、ご指摘のとおり、今年度改定した学校紹介パンフレットを作成するには多くの時間を要し、一部の教職員に過度な負担をかけてしまいました。そのような状況も次年度には解消すべく体制・運営方法を示していく必要があると自覚しております。

教職員にも生徒の成長を感じながら教育活動に従事してもらえよう管理職の責務を感じております。